

池田山フライトエリアの経緯

2017年7月作成

●1970年代

現在の林道はオフロードのラリーコースとして作られたと聞いています。車で登り道路脇からハングライダーでフライト。これが池田山フライトエリアの始まりです。

- ・ 40年以上前（1970年代）日本には、ハングライダーしか有りませんでした。
- ・ その頃は、現在の離陸場から北へ数十メートル北側の場所から飛んでいた。（図1）

●年度不明

池田町役場の予算にてハングライダー用のランチャー台を設置して頂きました。

- ・ 礎部分は国交省が建設、構造物は池田町が建設

●1985年頃

当初より飛んでいた北側の離陸場が、杉の木が伸び近い将来離陸出来ない状態となる事から、山洞地区、池田町役場の協力で、現在の池田の森公園内に離陸場を移して頂きました。（図1）

- ・ 西村光明議員にご尽力頂いたと伺っています。

現在より西側にあった着陸場が、現在の場所に移動される（図2）

- ・ 農地を着陸場としての使用は出来ないため、県庁の農業委員会に『スポーツ振興に協力する』という旨の許可を頂く為、町長、産業課、農林課等に多大なるご尽力を頂く。
- ・ 着陸場を移動した時に土地の賃貸借契約が対クラブでは不安との事で、議員さんの配慮により地主さんと池田町役場で賃貸借契約を結んで頂きました。
- ・ 当時の着陸場面積は現在の半分弱。（図3）
- ・ 池田山フライト協会が寄付金として池田町役場へ支払っているのは、この時期の土地代のみ。
- ・ その後、着陸場周辺の田畑の皆さんから、「うちも借りてほしい」との強い要望が役場に行き、同時に場外着陸が増えている事も有り、現在の面積に拡張して頂きました。（図3）
- ・ 着陸場の草刈りについては、池田町の施設（公園、堤防等）として役場から地主さんに草刈り代を出して頂いており、草刈りをして頂いております。

※この時に地主さんは、自費で乗用草刈り機を購入されたと聞いております。

●1995年頃

現在の駐車場を用意して頂きました。

池田町役場より体育館の施設の一環として計らって頂き、我々は無償提供を受けております。

翌年か翌々年、駐車場に設置しているプレハブ小屋を役場から寄贈して頂きました。

池田町役場のご尽力により、着陸場北の用水路に落下防止の金網を張って頂く。

●1998年頃

人数が増え大規模になってきた為、池田山フライト協会発足
使用団体が岐阜ハング、エアロクルーズ、ロコ、スカイダスト、CPC、チーム UL、と増加している為、池田山フライト協会を発足し、各団体から代表を集め役員とした。

●2002年

長年エリアを管理して頂いた唐津会長から小林会長へ交代。

■歴代会長

- ・唐津 ～2001
- ・小林 2001～2013
- ・鈴木 2013～2015
- ・小林 2015～2017

●2003年頃

離陸場移動から10年ほど経ち、役場予算にてテイクオフの面積を約2.5倍に拡張して頂き、現在の広さになる。(図2)

- ・小林会長の設計により、離陸の安全性が格段に向上。現在も改良する事無く利用されている。

●2006年

池田町長に他で余った田畑用の土を頂き、着陸場中央にある道路の「のり面」を「緩斜面」に改良。のり面への「激突」が無くなり、安全性が向上。

- ・着陸場中央道路脇の土盛りは小林会長の設計で実施。
- ・着陸場中央の道路にある側溝に蓋をする際、側溝の清掃に協力(又は清掃)する事となった。

●2016年

着陸場の北側用水路上金網を修繕する為、山洞地区の区長さんへ相談に伺ったところ『北側ネットが用水路清掃の時に邪魔になる』とのご意見が地区として上がっている、とのお話を受け撤去。

- ・北側ネットは、池田町(当時の町議主導)が私たちフライヤーのために設置頂きましたが「ネットが低くて用水路清掃の時に邪魔になる」との地区の方の声を受け、当初設置された高さから嵩上げされ現在の高さになっています。
- ・地区の方々が、設置から今まで” 私たちのために苦勞を買って頂いていた”事を重く捉えたいと考え、IFA役員で合議し、「北側ネット撤去」の方向で、意見をまとめさせて頂きました

●その他の実施内容等

■離陸場前の杉の木伐採について

伐採には役場から国へ計画と報告が必要との事で、山全体で年間伐採割合が決まっているが、他の場所を伐採(間引き)せずに離陸場前に集中させる書類を提出して頂いている。

■着陸場の草刈について

着陸場が現在の広さまで拡張された際、役場から草刈の依頼を受けた各地主さんに行なって頂いています。役場から各地主さんに支払われるのは年間数万円と聞いていますが、池田山フライト協会は、お支払いしておりません。

■片山生産森林組合について

片山生産森林組合へ立木補償費として年3万円をお支払いしています。森林組合に離陸場下の草刈等をお願いしております。

■地区協力金について

山洞区へ年 3 万円を協力金として寄付させて頂いております。

■池田町への寄付金について

年 1,107,000 円を寄付させて頂いております。

■池田山フライト協会年会費

- ・年会費 1 万円
- ・10 月以降の登録費 5000 円
- ・ビジターフライト費 2000 円

※繰越残高 5,902,066 円（平成 28 年度会計報告より）

■過去の重大事故

2001 年 7 月 5 日

- ・ 男性 事故当時 63 代（ロコスカイスポーツ又は池田山スカイダスト PG クラブ所属）
- ・ パラグライダーのハーネスからの脱落落下、落下時の高度は約 100 m。死亡。

2002 年

- ・ 男性 事故当時 50 代（岐阜ハンググライダークラブ所属）
- ・ ハンググライダーが着陸場に墜落。死亡。

2009 年 9 月 17 日

- ・ 男性 事故当時 81 歳（池田山スカイダスト PG クラブ所属）
- ・ パラグライダーのハーネスバックル閉め忘れにより落下し死亡。

2010 年 11 月 20 日

- ・ 男性 事故当時 64 歳（池田山スカイダスト PG クラブ所属）
- ・ パラグライダーが電線に引っ掛かり本人に怪我はないものの、救助の為に約 1300 世帯（藤代、草深、小寺、山洞、青柳、田畑、本郷）が停電。

2012 年 5 月 19 日

- ・ 男性 事故当時 68 歳（岐阜ハンググライダークラブ所属）
- ・ ハンググライダーのハーネスベルト締め忘れ。離陸場から 200m くらいの地点の木に不時着したが、そこから落下し死亡。

2016 年 10 月 13 日

- ・ 男性 事故当時 68 歳（池田山スカイダスト PG クラブ所属）
- ・ 着陸場に進入する際、高度 20m 付近で翼が失速及びスピンをしながら落下し死亡。

その他

- ・ ハンググライダーが高圧線へ接触し停電（岐阜ハンググライダークラブ所属）
- ・ 高圧線に接触し研修センターへ墜落（岐阜ハンググライダークラブ及び ZOOM ハングスクール所属）
- ・ 民家、電柱へ激突（バーズアイビュー所属、池田山スカイダスト PG クラブ所属）
- ・ 山への墜落、靱帯損傷、骨折等の事故発生、年平均 5～10 件
- ・ 着陸場外への着陸、年平均 20 件以上

■2017年4月15日からの事故

今シーズンオープンから2ヶ月間で以下の事故が連続して起きています。

- ・ 着陸失敗による骨折1件（池田山SDパラグライダースクール助教員）。
- ・ 離陸失敗による靭帯損傷1件。（無所属、機体買換直後）
- ・ 山への墜落2件
 - 池田山SDパラグライダースクール所属、救助用具未装備
 - 池田山スカイダストPGクラブ所属
- ・ 離陸失敗による骨折1件。（池田山SDパラグライダースクール所属、機体買換直後）

●小林会長の安全への取り組み

- ・ プロインストラクターとしての経験を活かしエリア運営を提言（意味が解からないという意味の解からない理由で、実際は全て無視される）
- ・ 大垣消防組合北部消防署と連携し、救急救命講習会を定期的を実施
- ・ 無線周波数の統一化を提言。（他クラブ・スクールは暗黙で無視され独自周波数を使い統一無線は聴かれていない）
- ・ バックル閉め忘れ防止として、クロスチェックの実施を提言
- ・ 全フライヤーの基礎技術と基礎知識の底上げを提言（聞き流された事により死亡事故が発生）
- ・ 重大事故発生時、消防署から小林会長へ連絡が入るなど、地域との連携体制を整備（完璧に機能していました）
- ・ その他、様々な安全性向上を提言（池田山を飛んでいるフライヤーとの安全に対する考え方に隔離が有り過ぎることで苦戦）

●2016年10月13日の死亡事故について

- ・ TO時、左真ん中が少し凹んでたがまっすぐ飛べていました。（なにかつってるよ～まあ問題ないと思うけどね～気にしてね～）と私(※1)は無線を3回程入れました）
- ・ そこそこ回した後、事故当事者から無線が入り、「なんかつってるから、そのままランディングに向かいます」という感じで無線が入りましたので、グライダーが原因では無かったと思われます。但し、事故当事者は事故の数日前から何度もオーバーウェイトの試乗機に乗っており、今回事故を起こした機体（数年前に梅村氏(※2)が電線に引っかかりラインを梅村氏自身で全交換したもの）との差異を修正できなかったのではないかと考えられます。（2014年には、同じような条件で圧迫骨折を起こしています。2015年には他エリアでLD時に木に引っかかっています。）
- ・ LD時、風向きはコロコロ変わっていましたが、風速は1～2m。先に降りたOさん、後に降りたNさんから無線で連絡をもらって急いで降りた私は、風はどちら侵入でも降りられると思えるほど気にならなかったので、事故当事者の近くに降りようとフォローで降りましたが、ほぼ無風なテンションでしたのでそのようにコントロールし駆けつける事が出来ました。
- ・ 当事者死亡により事故原因は断定できませんが、事故当事者の癖とも言える、狙った場所（いつもグライダーを畳んでいる所）に降りようと引き過ぎながら旋回した事による失速（約20mからの落下）が今回の事故原因と考えられます。
- ・ 私が降りた時の状況
 - 事故当事者は、救急車に運入され、心肺停止状態でAED&胸骨圧迫での心肺蘇生の状態でした。

- 警察が3~4名到着
 - 報道ヘリが来ました。(Oさん飛行中&LD中)
 - 警察官に「あれは消防・警察のヘリですか？危ないので連絡してくれ！」と言いましたが『報道ヘリですね』との事。その後、6機まで増えました。
- ・ IFA 会長とのやりとり
 - ちょうど私がNさんから事故当時者が意識不明との無線受けてLDに向かい飛んでいる時に、IFA 会長から TEL が有り、状況を伝えました。
 - LD 後数分後には、すでに各方面から TEL が鳴りっぱなしとの IFA 会長から TEL 有り。
 - 『とにかく家族への連絡を優先してくれ』との指示で、警察の無駄に同じ質問をいろんな人からやってくるのを一旦遮り、梅村氏へ、事故当時者が所属していた、スカイダスト会長(鈴木氏)及び、事故当時者といつも飛んでいる方へも連絡をお願いし、とにかく家族の連絡先を探してくださいとお願いしました。(スカイダスト会長は、携帯番号を変えたのを誰にも連絡しておらず連絡つかず。)
 - ・ ご家族への連絡について
 - 事故当時者のご家族の連絡先がわからない！皆で、事故当時者のハーネスの中身を確認&IFA 登録の連絡先を確認しました。自宅の電話番号は、IFA 会員登録時に登録されていましたが、連絡取れず。(連絡先にあったのは、事故当時者の自宅 TEL。奥様は東京の長女の所に居るとの事は梅村氏により確認できましたので、自宅は誰も居ない事が判明)ハーネス内の様々な情報を使いながら、皆で長女に連絡とろうとしましたが、出来ず。その場にいた警官に『国家権力を使って長女に連絡をしてください！』とお願い。数十分？数時間後？長女に連絡がつき、病院に向かっていると、警察の方から教えてもらいました。
 - ・ 墜落後
 - 墜落時には、Nさんが119番しましたので、警察にも連絡が行きます。警察に連絡が行くと、記者クラブが動き出し、救急車→警察→記者が到着します。(この時点で消防から小林会長に連絡が行ってますので私に連絡が来ました。)
 - 救急救命については、先日行なわれた救急救命講習のとおりに行われました。(残念ながら)
 - 警察とメディアは、ほぼ同じタイミングで来ました。
 - 各方面から連絡が入り始め、IFA 会長は、役場・メディア対応に専念中。私は、いろんな方が来ている現場の対応中に、メディアがその場に居た人に微妙な質問をしてきているのを感じ、皆に『メディアの質問には答えないように』指示。
 - この指示を聞き「そうやなあ、適当な事言わんほうがええな」と自分で言っておきながら無視した梅村氏が、事故当時エリア共通無線を聞いていなかったのも無線も通じず、まったく事故も見てもいないのに適当な聞きかじった憶測をメディアに話し『町内で活動しているパラグライダースクールによりますと、事故当時、風は穏やかだったということで』という適当な話をメディアは取り上げ報道されました。
 - 現場対応が一旦落ち着き、皆はLD小屋に避難。(メディアに捉まらないよう)しかし、梅村氏は、呼び止められたメディアすべてに対応。いいかんげんにしてくれ！と思った私が呼ぶも、無視。Nさんが袖を引っ張るようにして小屋に入れる。Oさんも戻ってきたので、Oさんに事故時の状況を聞きました。そして、私は、皆を前に言いました。「今回の事故については、IFA 会長は TEL 対応及び、役場、地主等関係者への連絡、私はこのまま現場に

残り対応をします」「皆さんにお願いしたいのは、メディアに何も話さないで下さい。すべて警察に話したので、記者の質問には『警察に聞いてくれ』で通してください」とお願いしましたが、すでに梅村氏は、スター気取りでぺらぺらしゃべった後。梅村氏は、何も聞いてないし、見ていないし、”何も知らない”ので記者もあの程度しか書けなかったのでしょう。梅村がLDに来た時には、とっくの昔に目撃者のOさんは救急車に同乗し病院に向かっていたのに、ぺらぺら目撃者面して話したのが、報道に乗りました。

- 昼食時（私はこの店の駐車場で教授の死亡を警察から連絡を受け、皆に報告しました）、WEBのNEWSを見た私が「適当なこと話すからこうなる！」と叱ると「まずいなあ〜スクールできんなあ〜エアロクルーズですって言っとくか〜」という反応。そして当日のフライトで事故当時者が持っていたアイコム無線機の話を一いきなり始め「こんななったらあれどうしようかなあ〜？転売先難しいなあ〜」と笑いながら言い始める。私は、事故当時者がその無線機を持って飛ぶことは知っていたしTOで教授とその話はしたので「あの無線機は、梅村氏が貸していたの？」と聞くと「いや、売ったやつ」その場の全員、絶句、、、私が怒鳴る前にNさんが一言「それは不謹慎だよ」
- その後、私は耐えました。梅村氏の人で無様な様々な言葉に。でも、もう駄目でした。記者に自分のTEL番号を伝えてあったのか、記者からTELが有り、向こうの質問に「IFAがすべて対応します。IFA会長？今、何やっているかわからん、たぶん何もしてない」と話しているのに私はキレました。「すぐに電話切れ！」「おまえ何を言っているんだ！IFA会長と俺が対応しているの知っとるだろう！」と叱るも「そんなん、知らん」とガキみたいな言い訳をする。

※ 1 当時 IFA 副会長の常川（辞任及び IFA 除名）

※ 2 池田山 SD(スカイダスト)パラグライダースクール校長 梅村（現職）

●池田山エリアでの事故について

- ・ 過去の池田山エリアでの死亡事故は、ハング 1 件を除いて全てスカイダスト所属メンバーによって起こっています。
- ・ また、死亡に至らなかった重大事故についてもスカイダスト所属、もしくは紹介により引き起こされています。
- ・ 2014 年、今回の事故当時者の圧迫骨折事故時、スカイダストメンバーは、目の前に倒れている事故当時者を無視し自分のグライダーを畳んでいました。それを見た私はハングの衆を集め救助に当たりました。『病院へ運ぶので誰か車を出してください！』と叫ぶと、めんどくさそうに駐車場を飛ばしてきたスカイダストメンバー(現：池田山 SD パラグライダースクールメンバー)の車に私は足を轢かれました。

●IFA 役員による暴挙の経緯について

下記をお読みいただく前提としてご理解いただきたいのは、IFA は非営利管理団体と標榜していますが、ただのフライヤーの集まりです。

慣例として飛んでいるだけのエリアで池田町役場からも使用許可は出ていません。

- ・ 池田山まるっと体験交流ツアーにおける「パラグライダー体験」の問題について
 - 下記 URL より（2017.7.9）第 5 回 IFA 役員会（出席：小林、早川、中村、三澤、森田、梅村、乙部、伊藤）を参照ください。

- もともと株式会社エアロクルーズが池田町役場から受けた依頼に対し IFA 役員会にて、『**IFA に無断で「(株) エアロクルーズ主催で、IFA ランディングを使用しパラグライダー体験を実施する予定だ！エアロクルーズは活動停止だ」**』と嫌がらせが開始される。
- そして IFA 役員達は『**活動停止を解除してほしいなら誠意を見せろ**』『**IFA 会員全員に無料で講習を行なえ**』などの嫌がらせを始めました。
- この後、私と小林会長で役場に話しに行きました所、パラグライダー体験は中止となるとの事でしたので、一応スカイダストへの鞍替え案も提案しましたが、役場に即却下されました。(賢明な判断です。事故を毎年起こしている団体ですから)
- ・ ふるさと納税について
 - 下記 URL より (2017.7.17) 第 6 回 IFA 役員会 (出席：伊藤、早川、中村、三澤、梅村) を参照ください。
 - 『ふるさと納税は IFA にした話』と書かれていますが、事實は、私が小林氏に提案し、役場に乗った話です。あなた達、事實の歪曲お好きですね。
 - 『知らされていない』とか書いてありますが、私は、あなた達に話しています。記憶障害ですか？
- ・ 2011 年東日本大震災発生時の IFA 義援金について
 - 下記 URL より (2017.7.22) 第 7 回役員会を参照ください。(出席：小林、早川、伊藤 (14：30～)、梅村、三澤、中村)
 - IFA として池田町役場を通して義援金を寄付しようと役員会で決定され、2011 年 4 月に寄付をしました。
 - 2017 第 7 回役員会にて、上記が寄付されていないという一方的な判断により、エアロクルーズの池田山での活動停止、及び、小林氏を除名すると決定されました。(会計監査：三澤)
 - 上記を受け、後日、私と小林氏が役場へ確認に伺ったところ、三澤、早川両氏が役場を訪れた際には、寄付がされていないと返答したとの事でした。『それはおかしい』と役場の方にお金の流れを精査頂いた所、義援金としての寄付はされており、池田町役場からも謝罪と共に領収書を頂きました。しかしながら、上記のような事実を無視し、人を陥れる為だけが目的の IFA 役員会から IFA 会員への封書による誹謗中傷の暴挙はこうして行なわれました。
 - 上記 IFA 義援金に関して、現在係争中になります。良識有るフライヤーの皆様におかれましては、**IFA との一定の距離を置かれますようお願い申し上げます。**

まとめとして、池田山フライトエリアとは、過去に死亡事故等の重大事故を起こし、地主様や役場への報告も無く、自分たちが飛べる事を優先している、スクールと名のる素人集団や各クラブが、自身の儲けだけを考え、それらに協調した販売店により引き起こされるという、スカイスポーツの暗部の典型パターンです。**自身の勝手な都合で空を飛ぶという事が、他者の迷惑であると認識できないフライヤーの驕りが現在のスカイスポーツの問題**で有るという事が浮き彫りになっております。

各クラブ、スクール教員の猛省と共に、各所属員のご理解をお願い致します。

■ IFA 議事録

<http://snow.advenbbs.net/bbs/yybbs.cgi?id=ifagiji&page=0&bl=0>

<http://ikedayama.net/giji.html> (キャッシュ)

■ IFA 議事録 (過去)

<http://ikedayama.net/giji/>

